

～地域の教育力を学校に～ (学校編)

学校支援ボランティアを 導入しましょう

「地域の方々の協力があれば、子どもたちのためにもっといろいろなことができるのになぁ…」

そんな先生方の思いをかなえてくれるものの一つが学校支援ボランティアです。ボランティアの方々の協力によって、教育活動の幅が広がり、大きな教育効果を生むことができます。

まず、自分の学校でどんな支援があるといいか考えてみましょう。

さあ、取組をスタートさせましょう。
まず、何から始める？



①教職員の理解

まず、先生方がこの事業について理解することから始まります。そして、どんな支援をしてもらおうと助かるのか、全教職員で共通理解しましょう。

○学校支援ボランティアの取組を進めると

- ・より専門的、具体的な学習が可能となり、児童生徒の学習意欲、興味・関心を高めることができます。(学力の向上)
- ・下学年の生活支援によって、教員が学級全体の学習・生活指導に集中することができますようになります。(落ち着いた学校生活)
- ・地域のいろいろな方との出会い・ふれあいによって、子どもや先生方と地域の関わりが生まれます。(コミュニケーション能力の向上)

○取組を進めると教員は忙しくなる？

鳥取県内でいち早くこの取組を始められた三朝町の初年度の教員対象アンケートの結果を紹介します。

①この事業が導入されて、あなたは…

	人数
忙しくなった	3
時間に余裕が出来た	5
忙しさには影響がない	38
合計	46

②この事業が導入されたことで…

	人数
よい影響があった	41
あまり変化がない	7
問題が生じている	1
合計	49

平成20年度 三朝町学校サポート推進事業報告書より

「身近な人が学校をよくしようと日々思ってくださっていることを実感できた」「教職員だけではできない部分（特に環境面）が改善された」等の肯定的な意見が寄せられています。

②コーディネーター探し

普段から地域活動に熱心に取り組んでおられ、地域の人材情報に詳しい人がおられたら、お願いしてみましょう。

たとえば、

元PTA役員、学校経営協力者、民生委員・児童委員、地域の青少年育成協議会役員などで、学校として信頼できる人をお願いしてみましょう。

③学校の窓口となる先生を決める

取組を推進するに当たり、学校とコーディネーターとの連絡を密にする必要があります。窓口の先生を決めておくことで、スムーズな連絡調整ができます。

④ボランティアを集める

窓口となる先生とコーディネーターが中心となって、ボランティアを募集します。(P18参照) 基本的には、公募で集めますが、下学年支援のボランティアなど継続して教室に入るボランティアについては、信頼できる人に個人的に依頼することも必要です。

⑤ボランティアの受け入れ体制について共通理解

この事業を推進するにあたって、ボランティアを受け入れる際の先生としての留意点やボランティアに配慮してもらいたいことなどを職員全体で共通理解しましょう。

(P14～15参照)

⑥立ちあげの会開催

ボランティアが集まったら、学校、コーディネーター、ボランティア、地域の関係者が集まって立ちあげの会を開催し、地域全体での学校支援について共通理解を図りましょう。それぞれの立場の思いを共有でき、取組をスムーズに始めることができます。



学校の受け入れ体制を整えましょう



・研修をしましょう

校内で研修会を行い、学校支援ボランティアについての理解を深めましょう。

・学校支援ボランティア活動年間計画を作成しましょう

学校がどんなボランティアを必要とするのか、必要な支援についての年間計画を作成しておく、より計画的なボランティア確保が可能となります。

・学校行事に招待しましょう

ボランティアの方々にとって学校行事は、子どもたちや学校の様子を見ていただき、理解を深めていただく絶好の機会です。ボランティアの方々の学校への理解が深まったり、教職員や子どもたちとのコミュニケーションも生まれ、活動がより円滑に進みます。

・学校の設備や教材を知ってもらいましょう

学校にどのような設備や教材があるのか、情報を提供しましょう。学校支援ボランティアの活動内容を考える際にたいへん参考になります。

・情報を共有しましょう

学校の経営計画や公務分掌などの情報をできるだけ提供しましょう。学校側から情報を提供することによって、地域からの情報も入ってきます。学校とボランティアの情報を交流し、共有しましょう。

・ボランティア掲示板を置きましょう

ボランティアの方々が校内外で活動している様子が、子どもたちや教職員にもわかるようなボランティア掲示板などを設置しましょう。

・ボランティアの居場所を用意しましょう

空き教室などを活用し、活動の準備や着替えのできる「ボランティアルーム」のような場所を設置しましょう。また、職員室の一角にソファなどを置いたり、控え場所を用意しましょう。

・ボランティア用の名札やリボンなどを用意しましょう

安全管理の面からも、ボランティア専用の名札やリボンを用意し、活動中に必ず身につけてもらうようにしましょう。

ボランティアを 迎え入れるにあたって



・ボランティアの気持ちを大切に、やる気を引き出しましょう

ボランティアの方々の思いや考えも尊重しながら、活動計画を立てたり、打合せをしましょう。学校とボランティアの双方の思いが生かされた活動につなげていきましょう。

・連絡を密にしましょう

学校で初めて活動されるボランティアの方々は不安も持っておられます。あらかじめ準備するものや当日の役割分担などを十分に打ち合わせをしておきましょう。

・ボランティアを全職員で気持ちよく迎えますよう

ボランティアの方々と気軽にあいさつを交わし、全職員で感謝の気持ちを持って対応しましょう。ボランティアが来校される際には、職員打合せ会や掲示板等で教職員間で共通理解を図りましょう。



**ボランティアは、便利屋さんや下請屋さんではありません。
ボランティアを「する人」と「してもらう人」は、対等です。
重要なのは、パートナーシップとコミュニケーションだ
ということを忘れないようにしましょう。**

・子どもたちや保護者にも説明しておきましょう

ボランティアの方々が何のため学校で活動されているのか事前に子どもたちや保護者にも説明しておきましょう。学校生活が地域の方々に支えられていることを理解できるような事前指導も必要です。

・活動を振り返りましょう

次の活動につなげるためにも、活動内容の成果や課題、改善点などについてボランティアの方々と話し合いましょう。

